

学術情報センター ニュース

第 23 号目次

《研究開発》

- ・ SGML 方式による学術論文の
データベース化…………… 2

《NACSIS サービス案内》

- ・ 平成 5 年度における
サービス休止予定…………… 5
- ・ NACSIS-IR からの
ILL 申込機能のサービス開始…………… 6
- ・ 電子メールシステムの新サービス…………… 7
- ・ 利用料金参照機能の機能追加…………… 17
- ・ 電子メールシステム利用者
マニュアル (第 4 版) の発行…………… 18
- ・ 平成 4 年度 NACSIS-IR モニタリング
- 報告 -…………… 18
- ・ 平成 5 年度 NACSIS-IR モニターの
募集…………… 19
- ・ 「EMBASE」の改訂…………… 21
- ・ 今後の学術研究活動調査および「研究者ディレ
クトリ」データベース改訂計画の概要…………… 22
- ・ NACSIS サービス Q&A…………… 23
- ・ 学術情報ネットワーク加入機関…………… 28
- ・ NACSIS-IR データベース収納状況…………… 29
- ・ 接続ニュース…………… 30
- ・ NACSIS-CAT
データベース構築状況…………… 31

《教育・研修》

- ・ 平成 4 年度教育・
研修事業報告…………… 32
- ・ 平成 5 年度研修事業計画…………… 34
- ・ 研修事業への参加手続…………… 39
- ・ 平成 4 年度目録所在情報
サービス利用説明会の報告…………… 41
- ・ 平成 5 年度目録所在情報
サービス利用説明会の開催…………… 41
- ・ 学術情報センター公開
講演会開催…………… 42

《その他》

- ・ 平成 4 年度後期会議などの
開催…………… 42
- ・ 海外渡航一覧…………… 44
- ・ 学術情報センター日誌…………… 44

SGML 方式による学術論文のデータベース化

1. はじめに

学術情報センターでは、学術情報の流通を促進するため、論文などを共通フォーマットで電子化し、全文データベースとして検索できるよう計画を進めています。電子化された論文は、学会誌の印刷や、電子メールによる交換など、広く応用できます。

実現する場合の問題としては、機種毎に異なるコード体系の違い、出力機器に応じた文書の中に混在する体裁情報の扱い、著者によって異なる文書の構造などがあります。これらを解決するため、本センターでは、論文の記述に 1986 年に ISO-8879 として規格化された SGML (Standard Generalized Markup Language : 標準一般化マーク付け言語) を採り入れることとしました。

既に欧米では、SGML による文書作成が活況を呈しており、米国国防総省では CALS (Computer-aided Acquisition and Logistics Support) プロジェクトで、技術文書を SGML で作成することを義務づけているほか、出版、航空、自動車などの多くの分野で利用が始まっています。

国内では、日本化学会が平成 5 年 1 月から、英文論文誌を SGML 方式で出版しています。

2. SGMLの概要

SGML は、文書記述のための国際規格であり、文書の論理的な構造と、具体的な表現形式を分離する考え方が基本にあります。まず構造化された電子文書を作ることにより、効率的な加工と、様々な利用を可能とするものです。

SGML 文書は、次の 3 つの部分からなります。

(1) SGML 宣言

使用する文字コード体系、マーク区切り子、記号文字などを宣言します。

(2) 文書型定義 (DTD : Document Type Definition)

文書の論理構造を定義する SGML の要です。文書交換をするグループ内で、対象とする文書の構造を分析し、「標題」「著者」「章」「項」... などの要素を抽出し、対応するタグの名称、タグの出現順序、タグの出現回数、置換語句などを決め、SGML の文法に従って記述したものが DTD です。

文書構造やタグ名は、予め用意されたものがあるわけではなく、事務文書、技術資料、学術論文など作成する文書の目的に合った構造の DTD を作ることとなります (図 1 参照)。

(3) 文書インスタンス

DTD に基づいて文書を記述したもので、文書中のタイトル、著者、所属など、意味を持った固まりの前後に、対応するマーク (タグ) を付けたものです (図 2 参照)。

```

<!-- 学術情報センター紀要 DTD -->
<!DOCTYPE 紀要 [
<!ENTITY % 情報 "資料区分, 題名, 副題!, 英題, 英副題!, 著者情報+" >
<!ELEMENT 紀要 -- (書誌情報, 目次+, 巻頭言+, 論文+, 後書き!, 投稿規定,
                    委員名簿) +(% 文中;)>

<!ELEMENT 論文 -- (論文情報, 論文目次!, 要旨!, 英要旨!, 本文, 謝辞!,
                    参考文献!) +(付録: 資料: 付加論文)>
  <!ATTLIST 論文 ID ID #REQUIRED LANG NAME #REQUIRED >
<!ELEMENT 論文情報 - 0 (% 情報; , 受付年月日*, 採録年月日!, キーワード*,
                        英キーワード*)>
<!ELEMENT 受付年月日 - 0 (年, 月, 日)>
  <!ATTLIST 受付年月日 TIME NUMBER #REQUIRED >

```

図1 学術情報センター紀要 DTD の一部

```

<論文 ID="R02" LANG="JA">
<論文情報><資料区分> 研究論文</資料区分>
<題名> 音楽鑑賞における快感の一要素について</題名>
<英題>On a Factor of Pleasantness in Music Appreciation</英題>
<著者情報 ROLE="AUTHOR"><姓> 山田</姓><名> 尚勇</名>
<Fネーム>Hisao</Fネーム><Lネーム>YAMADA </Lネーム>

<タイトル IDREF="R02C16"> <主題> 文化遺産としての問題</主題> </タイトル>
<タイトル IDREF="R02C17"> <主題> データベース化に先立つべき人間科学的研究
</主題></ タイトル><タイトル><主題> 謝辞</主題> </タイトル>
<タイトル><主題> 参考文献</主題></ タイトル> </論文目次>
<要旨><段落> 音楽の中の非可聴高周波成分が鑑賞者の快感の一端を担っているとい
う Oohashiらによる研究成果を踏まえて、アナログ技術によるLPレコードとディジ
タル技術によるCDとの二つの音楽メディアをめぐって分かれている評価を、聴覚生

```

図2 学術情報センター紀要文書インスタンスの一部

3. センターにおけるSGML関係の開発経緯

SGMLを利用して論文誌を電子化することにより、様々なフォーマットの印刷に対応できるほか、全文データベースへの加工が迅速かつ効率よく行えることが期待できます。このことを実証し、SGML化を推進するために、本センターでは、以下のことを行ってきました。

(1) 平成2年度 SGML 実験誌の作成

SGMLを使用した印刷物とデータベース作成の実験として、電子、化学分野の論文10件について、DTD設計、SGMLデータの作成を経て、印刷実験誌およびCD-ROMを作成しました。

(2) 平成4年度 センター紀要第5号の作成

SGMLの実用実験として、フロッピー入校、DTD設計、SGMLタグ付与を経て、印刷出版を行いました。

このデータベースについては、オンラインサービスを予定しています。

4. 学術論文SGML化のためのDTD作成

以上の経験をもとに、学術論文の電子的記述の標準となる、学術論文DTDの設計を行い、これを公開して、各学協会と学術論文のSGML化について検討を進める予定です。

5. おわりに

SGMLに関する参考文献には以下のものがあります。興味のある方は御覧ください。

- (1) Charles F. Goldfarb, "The SGML Handbook", Oxford University Press, 1990.
- (2) 芝野耕司「SGMLと全文データベース」, 情報処理学会情報学基礎研究会資料 14-2(1989.7).
- (3) Martin Bryan, 「SGML入門」, アスキー出版局, 1991.3
- (4) 田中洋一「文書記述言語SGMLとその動向」, 情報処理, Vol.32, No.10, p.1118-1125(1991.10).
- (5) 石塚英弘「SGML形式による学会誌全文データベース構築と印刷」, 情報知識学会誌, Vol.2, No.1, p.23-48(1991.12)
- (6) 根岸正光「フルテキスト・データベースの応用動向」, 情報処理, Vol.33, No.4, p.413-420(1992.4).
- (7) Eric van Herwijnen, 「実践SGML」, 日本規格協会, 1992.4
- (8) 吉岡誠「鍵を握る標準化言語SGMLは、今」, 標準化と品質管理 Vol.45(1992.11)

平成5年度におけるサービス休止予定

平成5年度における、各サービスの休止を以下のように予定しています。

なお、これ以外に休止する必要が生じたときは、その都度、各サービス・システムのニュースなどでお知らせいたします。

サービス		休 止 日 時
目録所在情報サービス		<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日, 日曜日, 国民の祝日および振替休日 ・毎月第4木曜日の正午以降 ・年末年始 (おおむね, 12月28日から1月4日まで) ・3月31日
情報検索サービス		<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の14時以降 ・日曜日, 国民の祝日及び振替休日 ・年末年始 (おおむね, 12月28日から1月4日まで) ・3月31日
電子メールサービス		<ul style="list-style-type: none"> ・月末の水曜日の12時から17時 (日程は以下のとおり) 4/28(水), 5/26(水), 6/30(水), 7/28(水), 8/25(水), 9/29(水), 10/27(水), 11/24(水), 12/22(水), 1/26(水), 2/23(水) ・以下の日程の9時から17時 3/31(木)
学術情報ネットワーク	パケット交換網 (パケット交換網 接続の SINET およびアクセスポイントを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の日程の13時から17時 6/24(木), 8/26(木), 3/31(木) ・1月末日の4日程度
	S I N E T	なし

(システム管理課)

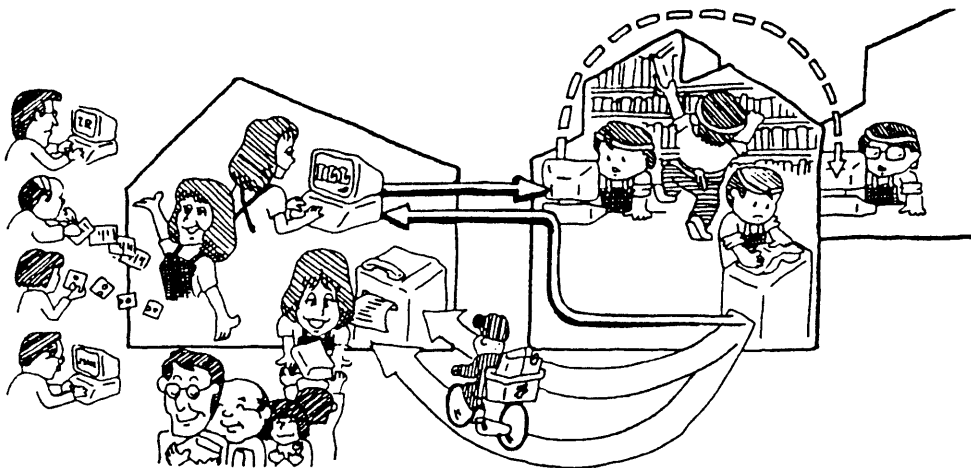
NACSIS-IR からの ILL 申込機能のサービス開始

本センターニュースNo.17(1991.9)のp.10ですでに紹介しました情報検索サービス(NACSIS-IR)からのILL(文献複写・図書貸借)申込機能について、平成5年4月からサービスを開始する予定です。

ILL申込機能とは、NACSIS-IRを検索して必要な文献があった場合に、原報請求用のコマンドを発行することにより図書館などに文献複写などの申込ができる機能です。この場合の申込はNACSIS-IR利用者が所属する機関の図書館に対して行うものであり、NACSIS-IR利用者が直接相手方の図書館に文献複写などの依頼をするものではありません。この機能により、NACSIS-IR利用者にとっては、従来の「申込用紙」などの方式に比べて簡便かつ正確に文献複写などの申込ができるようになります。また、図書館にとってはILLシステムの操作において書誌事項や申込者名などを新たに入力する業務が省略できるようになり、より迅速に処理が行われることが期待されます。

このILL申込機能の運用には、NACSIS-IR利用者の所属する機関の図書館がILLシステムに参加していることと、図書館における端末台数、要員その他の運用体制が整っていることが前提となりますので、全てのNACSIS-IR利用者がすぐに利用できるものではなく、運用体制の整った機関の利用者から順次利用できることとなります。NACSIS-IR利用者の方々には、所属する機関の図書館から運用開始およびその運用方式などについて別途案内が行われる予定になっています。

(専門・電子情報係)



電子メールシステムの新サービス

平成5年4月1日から以下のサービスの提供を開始します。

1. 国際電子メールの送信方法の機能追加

- (1) 送信時に指定する送り先が「NACSIS/CREN/MAILER」に固定され、実際の送り先は本文の先頭に指定する必要がありましたが、送信時の送り先にアドレスを直接指定できます（本文での設定が必要ありません）。
- (2) 国際電子メールの返信が行えませんでしたでしたが、Reply コマンドにより返信が可能です。
- (3) 受信メールの一覧表示およびメール本文の表示における発信者名の情報に国際電子メールの発信者 (From:) の内容を表示します。
- (4) 国際電子メールのメールアドレスをニックネームに保存してあれば、送信時にニックネームの指定だけで送り先の指定が可能になります。

なお、以上の機能追加後も従来の方式での国際電子メールの送信は引き続き利用可能です。

利用例1：メールの送信

SYSTEM ?MMAILS	①
MHS002 R 送り先 ?userid@domain.ac.jp	②
MHS002 R 送り先 ? (空行入力)	③
MHS003 R 主題 ?subject	④
MHS004 R 本文の存在するファイル名 ? (空行入力)		
MHS121 I メール本文を入力して下さい (空行入力で終了します)		
*(本文)	⑤
*(本文))	
*(空行入力)	⑥
メール I D : NACSIS-XXXXXXXXXXXX	}	⑦
発信時刻 : yy/mm/dd hh:mm:ss		
正受信者 : userid@domain.ac.jp		
SYSTEM ?		

①電子メール利用コマンド（送信）の入力

②国際電子メールのアドレスの入力

「NACSIS/CREN/MAILER」ではなく直接送信相手のメールアドレスが記入できます。

③送り先の入力終了（同報送信する場合はさらにメールアドレスを入力します）

④主題の入力（任意の内容が入力できます）

⑤本文の入力（行数に制限はありません）

先頭行にメールアドレスを指定する必要がありません。

⑥本文の入力終了（終了文字列はユーザプロファイルの設定内容により異なります）

⑦送信したメール情報の表示

利用例 2：受信メールの表示

```

SYSTEM ?MMAIL ..... ①
番号 状況 配信日付 発信者 主題
001 yy/mm/dd userid subject ..... ②

MHS050 R 番号または Delete,File,List,Print,Reply,Undo,DONE ? 1 ..... ③
MHS151 I #001 メール I D : NACSIS-XXXXXXXXXXXX 受信メールの参照 ..... ④
発信者 : userid@domain.ac.jp ..... ⑤
発信時刻 : yy/mm/dd hh:mm:ss ..... ⑥
配信時刻 : yy/mm/dd hh:mm:ss ..... ⑦
主題 : subject ..... ⑧
      <メール本文>
(本文の内容) ..... ⑨
(本文の内容) )
MHS054 R #001 Delete,File,Print,Reply,Hold(return) ?DONE ..... ⑩
SYSTEM ?
    
```

- ①電子メール利用コマンド（受信メールの表示）の入力
- ②受信メールの一覧表示
- ③メッセージ番号 1 番のメールを選択する
- ④メッセージ番号 1 番が選択された表示
- ⑤国際電子メールの発信者のメールアドレスの表示
- ⑥NACSIS-MAIL 内の受付日時
- ⑦NACSIS-MAIL 内の配信日時
- ⑧主題の表示
- ⑨本文内容の表示
- ⑩電子メール利用コマンド（受信メールの表示）の終了

利用例 3：ニックネームの作成

```

SYSTEM ?DIR ..... ①
DIR001 R コマンド(S,F,D,SEL,ORN,MA,NIC,L,ADD,DEL,M,REN,END,DONE) ?ORN us
erid@domain.ac.jp ..... ②
DIR001 R コマンド(S,F,D,SEL,ORN,MA,NIC,L,ADD,DEL,M,REN,END,DONE) ?NIC ni
ckname ..... ③
DIR089 I *** ニックネーム nickname が作成されました。 ..... ④
userid@domain.ac.jp ..... ⑤
DIR082 I *** リストの終了 ***
DIR001 R コマンド(S,F,D,SEL,ORN,MA,NIC,L,ADD,DEL,M,REN,END,DONE) ?DONE ..... ⑥
SYSTEM ?
    
```


- ①ディレクトリコマンドの入力
- ②メールアドレスの設定
- ③ニックネームの作成と保存（名称は任意の名称が利用できます）
- ④作成されたニックネーム名称の表示
- ⑤作成されたニックネームの内容の表示
- ⑥ディレクトリコマンドの終了

利用例 4：ニックネームで送り先を指定

```

SYSTEM ?MMAILS ..... ①
MHS002 R 送り先 ?nickname ..... ②
MHS002 R 送り先 ?userid@domain.ac.jp ..... ③
MHS002 R 送り先 ? (空行入力) ..... ④
MHS003 R 主題 ?subject .....
MHS004 R 本文の存在するファイル名 ? (空行入力) } ..... ⑤
      :
      :
      :

```

- ①電子メール利用コマンド（送信）の入力
- ②ニックネームの入力
- ③ニックネーム内容の表示
- ④送り先の入力終了（同報送信する場合はアドレスを入力します）
- ⑤以下は利用例 1 と同じです

2. ネットワークニュースサービスの開始

INTERNET（JUNET など）で運用されているネットワークニュースを電子メールシステム上で提供開始します。

- (1) 利用形態として次の 2 つの方法があります。
 - ・RN(Read News) コマンドによる利用（UNIX の RN コマンドに相当する機能です）
 - ・BBS コマンドによる利用（電子掲示板のユーザインターフェースと同じ操作方法で利用できる機能です）
- (2) ネットワークニュースサービスを利用する上で、国際電子メールの利用資格が無い場合は次の 2 つの制限があります。
 - ・ニュースのポスト（投稿）ができません。（表示は可能です）
 - ・r コマンド（メールでの返信）ができません。

RN コマンド

```
RN [-n newsgroups][ -i][ -clpC][ -s[-+?[group]]]
```

オプション一覧

オプション名	機 能
-n△newsgroup 名	ニュースグループの指定
-n△all	全てのニュースグループを対象
-i	.newsrsc (参照情報ファイル) を参照および更新
-c	未読記事があれば「You have news」を表示
-l	未読記事のニュースグループ名、ニュース番号、主題を表示
-p	未読記事の連続表示と .newsrsc の既読状態への変更
-C	未読記事のニュースグループ名、記事の数を表示
-s	.newsrsc の中のニュースグループの表示
-s-group名	.newsrsc の中のニュースグループを参照しないように設定
-s+group名	.newsrsc の中のニュースグループを参照するように設定
-s?	ニュースグループの一覧

サブコマンド一覧

コマンド名	機 能
空行	ニュース内容の表示または次のニュースのヘッダーの表示
.	ニュース内容の表示
n	次のニュースへ移動
+	次のニュースへ移動
- (ハイフン)	1つ前のニュースへ移動 (連続は不可)
s△[file名]	ニュースをファイルに保存
h	ニュースのヘッダーの表示
H	ニュースのヘッダーの表示 (全部の表示)
N	次のニュースグループへ移動
N△newsgroup名	指定したニュースグループへ移動
U	.newsrsc (参照情報ファイル) を更新し、このニュースグループを参照しないようにする 次のニュースグループへ移動
番号	ニュースグループ内の指定した番号のニュースへ移動
!command	T S S コマンドの実行
q	RN コマンドの終了 (.newsrsc を更新する)
x	RN コマンドの終了 (.newsrsc を更新しない)
p	ニュースの投稿
r	ニュース投稿者にメールで返信
f	ニュースに対してフォローアップニュースを投稿
?	ヘルプファイルの表示

注：上記コマンドは大文字小文字の認識を行ないます。

△は半角のスペース 1 文字を表します (以下の利用例についても同様)。

利用例1：RN コマンド

<u>SYSTEM ?RN△-n△all</u>	①
<u>Newsgroup ai</u>	②
Article 5 of 5 (ai) Tue. 5 Jan 1993 10:08:15 GMT	③
Subject: ニュースのタイトル 5	④
from: xxx@xxx.xxx.ac.jp	⑤
?空行入力	⑥
ニュースの本文 5	
?空行入力	⑦
<u>Newsgroup announce</u>	⑧
Article 8 of 8 (announce) Wed. 6 Jan 1993 13:10:49 GMT	
Subject: ニュースのタイトル 8	
from: xxx@xxx.xxx.ac.jp	
?N△books	⑨
<u>Newsgroup books</u>	
Article 11 of 15 (books) Tue. 5 Jan 1993 11:37:28 GMT	
Subject: ニュースのタイトル 1	
from: xxx@xxx.xxx.ac.jp	
?15	⑩
Article 15 of 15 (books) Thu. 7 Jan 1993 11:16:21 GMT	
Subject: ニュースのタイトル 1 5	
from: xxx@xxx.xxx.ac.jp	
?h	⑪
Article 15 of 15 (books) Thu. 7 Jan 1993 11:16:21 GMT	
Subject: ニュースのタイトル 1 5	
from: xxx@xxx.xxx.ac.jp	
Date: Thu. 7 Jan 1993 11:16:21 GMT	
Newsgroups: books	
Path: xxx!xxx	
?空行入力	⑫
ニュースの本文 1 5	
?空行入力	⑬
No more articles (press RETURN again to quit).	
?空行入力	⑭
system ?	

- ①ネットワークニュース (RN コマンド) の利用開始
全てのニュースグループを利用する
- ②最初のニュースグループ「a i」が対象になっている表示
- ③ニュースグループ内のメッセージ数の表示
- ④ニュースのタイトルの表示
- ⑤ニュースの投稿者のメールアドレスの表示
- ⑥ニュース内容の表示の指示
- ⑦次のニュース内容の表示指示 (次のニュースがないため、次のニュースグループに移動した)
- ⑧ニュースグループ「announce」が対処になっている表示
- ⑨ニュースグループ「books」に移動する
- ⑩15番のニュースを選択する
- ⑪ニュースのヘッダ情報を表示
- ⑫ニュース内容の表示の指示
- ⑬次のニュース内容の表示指示 (次のニュースがないため、改行かPの入力指示)
- ⑭空行入力でコマンドの利用終了

利用例2：BBS コマンド

```

SYSTEM ?BBS△NETNEWS ..... ①
BBS053 I 指定掲示板に移動しました
掲示板名 : NETNEWS ..... ②
BBS001 R (NETNEWS)コマンド[BL,G,B,T,L,W,R,DEL,-END] ?G△AI ..... ③
BBS053 I 指定掲示板に移動しました
掲示板名 : AI ..... ④
BBS001 R (AI) コマンド[BL,G,B,T,L,W,R,DEL,-END] ?R△1 ..... ⑤
メッセージ番号: 000001
<登録者情報>
  ニュースのタイトル1 ..... ⑥
<メッセージ>
  ニュースの本文1 ..... ⑦
BBS001 R (AI) コマンド[BL,G,B,T,L,W,R,DEL,-END] ?B:G△BOOKS ..... ⑧
BBS053 I 指定掲示板に移動しました
掲示板名 : BOOKS
BBS001 R (BOOKS)コマンド[BL,G,B,T,L,W,R,DEL,-END] ?R
メッセージ番号: 000001
<登録者情報>
  ニュースのタイトル1
<メッセージ>
  ニュースの本文1
BBS016 R NEXT[N,D,F,M,E] ?E
BBS001 R (BOOKS)コマンド[BL,G,B,T,L,W,R,DEL,-END] ?-END ..... ⑨
SYSTEM ?
    
```

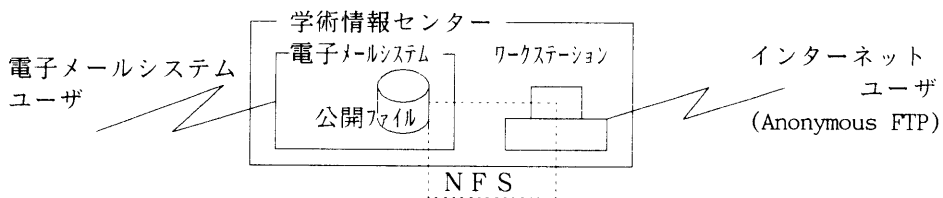
- ①ネットワークニュース（BBS コマンド）の利用開始
- ②掲示板名「NETNEWS」の表示
- ③ニュースグループ「AI」の掲示板に移動
- ④掲示板名「NETNEWS」の表示
- ⑤ニュースの表示コマンド入力
- ⑥ニュースのタイトル表示
- ⑦ニュースの本文表示
- ⑧ニュースグループ「BOOKS」の掲示板に移動
- ⑨ネットワークニュースの利用終了

BBS コマンドによる利用法は従来からの電子掲示板利用と同じですが、管理情報の表示の一部が省略されています。

3. 公開情報のファイル転送サービスの開始

電子メールシステムのユーザが、他のユーザに広く情報を公開する手段として、従来電子掲示板システム（BBS）をサービスしています。しかし、BBS では、データやドキュメントおよびソフトウェアには実用的ではありません。そこで、公開する情報を1つのファイルとして作成し、ファイル転送によって公開するシステムのサービスを開始することとしました。公開される情報は、本センターが収集するものおよびユーザ提供のものがありますが、これらは逐次登録されていきます。

また、このシステムは、電子メールシステムからだけでなく、インターネットに接続されたワークステーションからも anonymous FTP（匿名ログインによるファイル転送プロトコル）の機能を用いて広く利用可能なシステムとしました。



NFS : Network File System
FTP : File Transfer Protocol

図：ファイル転送システムの構成

3.1 利用法

(1) 電子メールシステムからの利用

電子メールシステムに接続後、コマンドにより希望のファイルを各ユーザに割り当てられたファイルに取り出せます。取り出した後のファイルの表示や削除などの取扱いは、メールのファイルなどと同様、電子メールシステムのシステムコマンドにより行ないます。

また、ファイル名の一覧と、ファイルの内容は、掲示板(NACSIS.FTP)に掲載してあります。なお、各ユーザが利用できるファイル容量は、約1Mバイトですので、大きなファイルを同時に複数取り出す場合は注意が必要です。

利用例1：公開ファイルを一時ファイルに取り出す（LOGOFFすると削除されます）

```

SYSTEM? XFSUTL△OLD△FTP/PUB/DATA1 ←—— FTP/PUB/DATA1 というファイルを
SYSTEM? LIST                               一時ファイルにとり出します。

sample1   }
sample2   }  取り出したファイルの内容が表示されます
sample3   }
    
```

利用例2：公開ファイルをユーザファイルに取り出す

```

SYSTEM? XFSUTL△CPYX
INPUT FILENAME(INPUT XFS TYPE) sample1 ←—— 取り出すファイル名を指定します
INPUT FILENAME(OUTPUT FRC TYPE) TEST1 ←—— 出力ファイル名を指定します
INPUT EUC-JIS OPTION(ON:1 OFF:0) 1 ←—— ファイルはEUC形式なので、転送
                                           の際JISに変換します
INPUT COMMAND? DONE ←—— ファイルの転送を終了します
    
```

利用例3：公開ファイルをユーザファイルに取り出す（簡略な方法）

上記の例と同じことを1行で指定することもできます。

```

SYSTEM? XFSUTL△CPYX△sample1△TEST1△OPTION
        (OPTIONはEUC-JISの変換オプション有の意味で、省略時は無になります)
    
```

(2) インターネットに接続されたワークステーションからの利用

anonymous FTP システムの ip アドレスは、157.1.32.5 に設定しています。ftp でシステムに接続後、以下の手順でログインしてください。

```
% ftp 157.1.32.5 ←————— I P アドレス(157.1.32.5)を指定します

Connected to EWS
220 EWS FTP service(Version 6.85 yy.mm.dd)ready.
Name (EWS:staff): anonymous ← ログイン名は必ず anonymous と入力します
331 Guest login ok,send e-mail address as password
(password):
A09999@sinet.ad.jp ←————— パスワードは、メールアドレスを入力します
230 user anonymous logged in (画面上は、表示されません)
ftp> ~
```

これ以降は、一般の ftp と同じコマンドが利用できます。ただし、put (書き込み) は、できません。また、ファイルの内容については、README というファイルの中に説明を作成してあります。

ログイン後の使用例を以下に示します。

```
ftp>dir ←————— ファイルの一覧を表示させます
200 PORT command successful.
150 ASCII data connection for /bin/ls.
total 4
-rw-rw-r— 1 ftp      staff      1522 Jan 22 20:35 README
-rw-rw-r— 1 ftp      staff        871 Jan 25 20:35 sample1
-rw-rw-r— 1 ftp      staff        638 Jan 25 20:40 sample2
-rw-rw-r— 1 ftp      staff        872 Jan 25 20:42 sample3
226 ASCII Transfer complete.
remote:
1460 bytes received in 0.903 seconds ( 1.578 kbytes/s)
ftp>get△sample1△test ←———— sample1 を test というファイル名で転送
200 PORT command successful.
150 ASCII data connection for sample1 (871 bytes).
226 ASCII Transfer complete.
local: sample1 remote: test
854 bytes received in 0.091 seconds ( 9.191 kbytes/s)
ftp>quit ←————— F T P の利用を終了します
```

3.2 公開情報のユーザ提供

サービス開始時点では、本センターからの各種ドキュメントなどを公開ファイルとしてサービスし順次拡大する予定ですが、ユーザの方で自作のファイルやソースプログラムの公開を希望される方は、センターでファイル書込みの準備作業を行いますので、電子メール、電話、FAXなどで以下の事項をお知らせください。(ユーザの方が直接ファイルを作成することはできません。)

- (1)公開情報の内容
- (2)公開情報ファイルの大きさ (バイト数)
- (3)希望公開期間
- (4)連絡先 (メールアドレス)
- (5)ファイルを提供される方の所属・氏名

電子メール： 学術情報センター／ユーザ／サービス または z00690@sinet.ad.jp

電 話： 03-3942-6944 学術情報センター

F A X： 03-3942-9398 システム管理課 システム管理係

4. ディレクトリコマンドの統一

従来、ディレクトリについては、「DIR」(学術情報センターの利用者のディレクトリ)と「MDIR」(各大型計算機センターなどの利用者を含むSIMAILのディレクトリ)の2つのコマンドを提供していましたが、これを統一し「DIR」コマンドとして提供します。

コマンド名	従来の機能	4月1日以降の機能
MDIR	SIMAILのディレクトリ	(廃止)
DIR	学術情報センターのディレクトリ	SIMAILのディレクトリ (学術情報センターのディレクトリを含む)

これにより、学術情報センターおよび各大型計算機センターなどに設置されたメールボックスの利用者についてDIRコマンドで検索が可能になります。

旧DIRコマンドで作成したニックネームなどの付随する機能については継続して利用可能です。

(システム管理課)

利用料金参照機能の機能追加

平成3年8月1日よりサービスを開始した利用料金参照機能に、年度始めから最新請求月の請求月別の合計および累計を表示する機能（TOTAL オペランド）を平成5年4月1日より追加します。以下に使い方の説明をします。

コマンド名	オペランド
CHARGE	$\left\{ \begin{array}{l} [\text{MONTH(mm)}] \\ \text{TOTAL} \end{array} \right\} [\text{ACCT(x)}]$

mm : 料金の請求月（4月利用分は5月請求となります。）

x : 支払コード

- ※ MONTH と TOTAL はどちらか一方を指定します。オペランドは省略することができます。MONTH を省略した場合は最新の請求月、ACCT を省略した場合は現在 LOGON している支払コードとなります。なお、オペランドを複数指定する場合は、空白又はカンマ「,」により区切ります。

【 利用例 】

```

>> CHARGE TOTAL

USER-ID = A99999 ( 93 NEN 05 GATSU SEIKYUU BUN KARA 08 GATSU SEIKYUU MADE )
  MONTH      CHARGE      SUM CHARGE
-----
    05          0          0
    06       1,371       1,371
    07          0       1,371
    08       3,164       4,535

** TOTAL CHARGE =          4,535 YEN

CHARGE LIST ENDED.
>>

```

項目の説明

- ① MONTH : 請求月
- ② CHARGE : 請求金額
- ③ SUM CHARGE : 請求金額の累計

(共同利用係)

電子メールシステム利用者マニュアル（第4版）の発行

電子メールシステム利用者マニュアル（第4版）を平成5年4月に発行します。

平成5年4月に提供予定の新サービス（Anonymous FTP, インターネットニュース）およびすでに機能追加した内容（電子掲示板, 電子メール, TEXT エディタ）を含め最新のサービスに対応し編集しました。

このマニュアルは平成5年度に新規の利用申請された方には利用承認書とともにお送りしますが、継続利用されている方については希望の場合にお送りしますので、次の事項を明記の上 FAX(03-3814-4931) または電子メール（-UID Z00690）でお申し込みください。

「電子メールシステム利用者マニュアル（第4版）希望」

(1)送付先の 郵便番号, 住所, 氏名

(2)利用者番号

宛先：学術情報センター管理部共同利用課共同利用係

(共同利用係)

平成4年度 NACSIS-IR モニタリング ー報告ー

NACSIS-IR について、きめ細かく利用者の方々のご意見、ご要望を伺うために、平成4年度 NACSIS-IR モニター制度を以下のように実施しましたので報告します。なお、モニター各位には、貴重なご意見などをいただき厚くお礼申し上げます。

1. スケジュール

平成4年	6月1日～6月19日	NACSIS-IR オンラインニュースにて公募
	7月1日～10月31日	モニタリング実施
	11月10日	報告書提出期限
	11月20日	報告会開催

2. モニター

応募者の中から、専門分野、経験などを考慮し、研究者、図書館職員それぞれ10人の方をお願いしました。

3. モニターからのご意見など

貴重なご意見などを数多く頂きました。今後の事業推進の参考とさせていただきます。

なお、一般的事柄についての回答は、センターニュース本号の NACSIS サービス Q&A に掲載します。

(データベース課)

平成5年度 NACSIS-IR モニターの募集

学術情報センターでは、NACSIS-IR について、従来、利用者懇談会や電話などによる直接連絡などを通じて、利用者の方々のご意見・ご要望をお伺いし、情報検索サービスの改善・充実に努めてきたところです。平成4年度には、新たに NACSIS-IR モニター制度を実施し、よりきめ細かいご意見・ご要望をお伺いすることができました。

平成5年度においても、下記により、NACSIS-IR モニター制度を実施いたしますので、モニタリングを希望される方はご応募下さい。

1. モニター制度の概要

NACSIS-IR モニター制度は、利用者の中から研究者・図書館職員それぞれ10名程度の方にモニターとなっただき、一定期間内に自由に NACSIS-IR を利用していただいた上で、ご意見などの報告をお願いするものです。

2. 平成5年度NACSIS-IRモニター制度 実施要領

募集人数	研究者，図書館職員 各10名程度
応募資格	NACSIS-IR の利用者（ただし，既にモニターとなられた方は，当分の間除外させていただきます。）
報 告	(1) 学術情報センター指定の様式による報告書を提出していただきます。 (2) 報告会に出席していただきます。
経 費	(1) NACSIS-IR 利用料金は，各人10万円分まで無料です。 (2) 報告会出席のための旅費は，学術情報センターが負担します。 (3) (1)，(2)以外の費用は，モニターの負担となります。
スケジュール	募 集 平成5年4月1日 ～ 5月12日 モニタリング 平成5年6月14日 ～ 10月13日 報告書提出 平成5年10月22日まで（必着） 報 告 会 平成5年11月25日（木）を予定

3. 応募要領

応募方法	別記応募用紙様式に従って記入し，申込宛先まで郵送して下さい。
募集期間	平成5年4月1日 ～ 5月12日（必着）
モニター選考	応募者多数の場合は，学術情報センターで選考の上，応募者全員に選考結果をお知らせします。なお，モニターの委嘱にあたっては，所属長の承諾があることを原則とします。
申込宛先	〒112 東京都文京区大塚3-29-1 学術情報センター データベース管理係 モニター担当宛 (Tel. 03-3942-6974, 6973)

(データベース課)

別 記

平成 5 年 月 日

学術情報センター所長 殿

NACSIS-IR モニターとなることを希望します。

(フリガナ) 氏 名	印
所属機関、役職名 (できるだけ詳しく)	
連絡先住所	
電話番号	内線 FAX
専門分野 (図書館職員の方は担当業務)	
NACSIS-IR 利用者番号	
NACSIS-IR 利用年数	利用頻度
よく使うデータベースの呼出しコマンド名 (複数可)	
NACSIS-IR 以外でよく使う情報検索サービス名 (複数可)	

「EMBASE」の改訂

「EMBASE」データベースの検索システムについて、以下のように改訂を行うこととなりました。

1. 概要

(1) シソーラス表示・検索の強化

指定した EMTREE 語に対応する EMTREE コードおよびシソーラス情報を表示させるようにします。

指定した EMTREE コードに対応する EMTREE 語および階層構造を表示させ、検索できるようにします。

(2) "MALIMET" コマンドの名称変更

MALIMET シソーラスが廃止され EMTREE に統合されたため、シソーラス用語を指定して検索する "MALIMET" コマンドの名称を、"SYNONYM" コマンドに変更します。

(3) インデックスの拡充

著者の所属機関名、住所で検索できるようにします。

標題中の単語や会議情報、医学用語・医薬品用語の重要語に限定して検索できるようにします。

医学用語・医薬品用語の、EMTREE 語とリンク語とを併せた検索ができるようにします。

(4) 表示形式の改善

医学用語、医薬品用語、医薬品商品名、医薬品製造会社名の表示形式を見やすくします。

また、出力モードを2つ追加します。

(5) ヘルプ・コマンドの新設

コマンドや項目の説明などを表示させるヘルプ・コマンドを新設します。

(6) プリフィックス "L." の検索制限の解除

プリフィックス "L." (言語種別) の索引のうち、"ENGL" (英語) による検索を中止していましたが、この制限を解除し、"L.ENGL" で検索できるようにします。

2. サービス開始時期

平成5年7月を目処に準備を進めています。なお、日程が決まり次第、オンラインニュースなどでお知らせします。データベースの内容については、サービス開始時に発行予定の「NACSIS-IR データベースシート (EMBASE)」をご覧ください。

(データベース課)

今後の学術研究活動調査および 「研究者ディレクトリ」データベース改訂計画の概要

「平成4年度学術研究活動に関する調査」は、関係者並びに大学等のご協力により、九割を超える回収率を得、現在、鋭意データベース作成を進めているところです。

今後につきましては、データ内容のより一層の充実、精度の向上などのための定期的な調査の実施並びに作成されるデータベースを各大学等において当該調査支援などのために活用していただくためのデータの提供などを下記のように計画・検討いたしておりますので、今後とも調査にご協力をお願いいたします。

1. 今後のスケジュール

(1) 平成5年度

6月～9月 ・「平成5年度学術研究活動に関する調査」実施予定

〔 新たな項目（現在の研究分野，現在の研究テーマ他）調査
研究者本人による入力データの確認など 〕

(2) 平成6年度以降（計画）

- ・学術情報センターオンライン情報検索システム（NACSIS-IR）による「研究者ディレクトリ（新版）」のサービス実施
- ・冊子体，CD-ROMの刊行
- ・全国調査説明会の開催
（大学等に対する協力依頼および個別版データの提供方法説明）
- ・各大学等の個別版データの提供

(3) サービス開始以降の調査予定（検討中）

- ・毎年度調査（新採者・退職者を含む異動者，物故者などの中間調査）
- ・一定の期間毎の悉皆調査

（データベース課）

NACSIS サービス Q&A

情報検索関係

以下の要望などは、平成4年度 NACSIS-IR モニター制度において出されたものです。

要望1

- ・英語などで複数の単語の組合せで意味のある句 (phrase) を、句として検索したい。
- ・近接演算機能を設けてほしい。

現在の NACSIS-IR では、複数の単語を全て持つレコードの検索（論理積検索）はできませんが、複数の単語が指定した順序で隣あっているレコードを探すような、いわゆる近接演算機能はありません。英語などの句の検索も、近接演算機能があれば可能になるのですが、現在は、句を構成する単語の論理積をとる検索をすることになります。

近接演算機能については、必要性は認識しており、技術上の検討をしているところですが、短期間での対応は難しいと考えています。

要望2

- ・複数のデータベースを一度に検索したい。
- ・あるデータベースを検索していて、続けて他のデータベースの検索に移りたい。

現在、これらの機能を実現する方向で検討を進めています。

要望3

- ・講習会を東京以外で開催して欲しい。
- ・大学等で実施する講習会に学術情報センターから講師を派遣して欲しい。
- ・大学内で自主的に実施する勉強会のようなものに、利用料金のかからない利用者番号を貸与して欲しい。

NACSIS-IR の講習に関するご要望について、まとめてご回答します。

(1) 東京以外での講習会の開催について

平成4年度から東京以外でも地方大学との共催で NACSIS-IR 講習（総合コース）を実施しています（平成4年度は、北海道大学、金沢大学、立命館大学、鹿児島大学で開催）。平成5年度の実施計画などについては、本センターニュースなどで広報します。

(2) 学術情報センターからの講師派遣について

大学等で実施する講習会への学術情報センターからの講師派遣は、一定の規模の事業に対して求めがあれば、可能な範囲で対応したいと考えています。

(3) 大学等で行う勉強会への利用者番号の貸与について

利用資格を有する方々を対象に、図書館や情報処理センターなどが実施する NACSIS-IR の周知や検索技術の向上を図るための事業には、無料の利用者番号を貸与する制度があります。

講習会については研修係に、講師の派遣および利用者番号の貸与については共同利用係にご相談下さい。

要望 4

- ・ヘルプ機能をつけて欲しい。
- ・?INFO の他に各コマンド、各データベースについての説明を表示するコマンドを。

現在、?INFO コマンドにより、項目一覧を表示しています。更に、幾つかのデータベースでは、各コマンド、各項目の説明を表示するコマンドを用意しており、これらは、順次他のデータベースにおいても利用可能にしていきます。その他の情報をオンラインで表示する機能については、実現方法を検討し、可能な限り充実させる予定です。

要望 5

- ・学会発表データベース、雑誌記事索引データベースなどの収録対象の拡大を。

学会発表データベースのような学術情報センターが作成するデータベースについては、利用者のニーズなどを勘案しつつ、参加学会などの拡大を図っています。雑誌記事索引データベースのような他機関で作成するデータベースについては、基本的には当該作成機関の判断になりますので、利用者からの強い要望として伝えたいと考えています。

要望 6

- ・DISPLAY の出力モードを統一して欲しい。

データベースによって項目の種類および数が異なるため、ある程度出力モードに差異がでるのは避けられないと考えていますが、現状で最適であるとはいえないことも認識しています。大幅な改変になるため直ちに変更はできませんが、機会をみてできる限り統一したいと考えております。

質問 1

- ・人名での検索がうまくいかない。

主な場合として次のことが考えられます。

- (1) 日本語のデータベースにおいて、カナヨミもしくはローマ字で検索したが、見つからない。
 - ◇ データベースによっては、人名が漢字形しかない（原データ作成者がヨミを作成していない）ものがあります。この場合は、漢字で検索して下さい。
 - このようなデータベースについても、人名のヨミを入力する方向で検討しています。
- (2) 名を完全形で指定したい。
 - ◇ 特に、英語系のデータベースでは、原データに名のイニシャル形しかないものがあり、この場合は、イニシャル形で検索しないとうまく探せません。また、名をフルネームで持っているデータベースで検索する場合も、姓と名を別の語として論理積をとる場合や、姓+名の形で1語として検索する場合など、データベースによって違いがあります。詳しくは、総合マニュアルのデータベース編およびコマンド編のAUTHOR コマンドの説明をご参照下さい。
- (3) AUTHOR コマンドで正しく検索されない。
 - ◇ AUTHOR コマンドには、複数の著者名を指定した場合に、論理和をとるものと論理積をとるものの2種類があり、データベースによってどちらになるかが決まっています。また、空白の扱いや前方一致をする／しないなどの違いもありますので、注意が必要です（詳しくは、総合マニュアルのコマンド編 AUTHOR コマンドの説明をご参照下さい）。
- (4) SEARCH コマンドなどで、プリフィックスを付けずに人名を検索した。
 - ◇ 通常、人名のプリフィックスはA. ですので、SEARCH コマンドなどでは、必ずプリフィックス A. を指定して検索して下さい。

(データベース課)

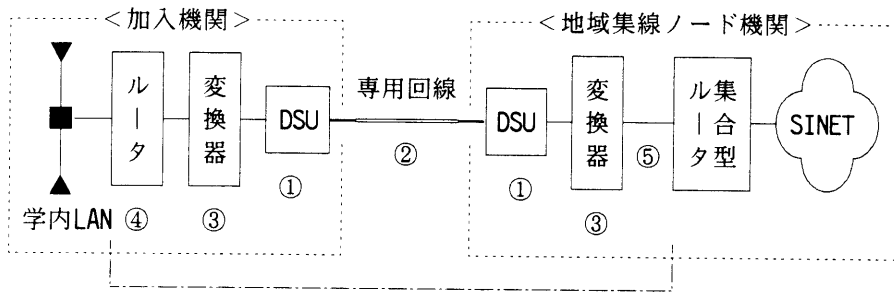
学術情報ネットワーク関係

質問 1

- ・SINET 地域集線ノードについて具体的に教えてください。

SINET 地域集線ノードとは、学内 LAN の整備が進んでいる機関が集中している地域のトラフィックを効率的に SINET に收容するために、パケット交換網ノードに集合型ルータと高速デジタル回線を設置したもので、その概要はセンターニュース第 2 号でお知らせしたとおりです。平成 5 年 2 月現在、千葉大学、神戸大学、電気通信大学および横浜国立大学の 4 か所設置されており、今後も順次、整備・拡充していく予定です。

SINET 地域集線ノードは、SINET 加入機関の学内 LAN を接続するためのノード設備であるという点では、SINET ノード（全国 8 か所）と同様ですが、加入機関は自機関側のルータのみを用意すれば、地域集線ノード側の集合型ルータへ接続することが可能です。ただし、自機関側ルータは、通信方式の関係から当該集合型ルータと同一メーカ（同系列）のものである必要があります。接続形態を下図に示します。



加入機関で用意する設備

- ①回線終端装置 2台
- ②専用回線 (①, ②は回線事業者が設置)
- ③インターフェース変換器 2台 (回線終端装置のインターフェース(Y または I)対応品)
- ④加入機関側ルータ 1台
- ⑤高速シリアル接続ケーブル 1本 (V.35 または X.21 対応品)

接続に使用する専用回線は、本接続形態の特性を十分に活かすためにも、64Kbps 以上の高速デジタル回線を使用することをお勧めします。

また、加入機関側ルータと地域集線ノード側ルータ間的高速シリアルポートは、IP アドレスを設定しない接続方式 (Unnumbered) を採用しており、加入機関側ルータには、学内 LAN 側のみの IP アドレスを割当てればよいことになります。

なお、SINET ノードと同様に、加入機関が地域集線ノード側と自機関側の双方のルータを用意して接続することも可能です。この場合は、接続用ルータは任意の機種のものを使用することができます。

質問 2

- ・ SINET へ UUCP や SLIP で接続したいのですが。

SINET ノードや SINET 地域集線ノードでは、UUCP や SLIP による接続用の環境はありませんが、近隣の SINET 加入機関で、UUCP や SLIP を用いた接続の環境を提供して頂き、その協力を得て接続することは可能です。現在、同形態で数機関が SINET に加入しております。

接続に当たっては、当該機関との調整を行っていただく他、「学術情報ネットワーク加入申請書」を学術情報センターまで提出してください。

質問 3

- ・ キャンパスが複数の地区に分かれているのですが、各キャンパス毎に SINET に加入できますか？

SINET は機関単位の加入を原則にしておりますが、キャンパスが複数の地区に分かれている場合は、各キャンパス単位での加入を認めております。ただし、各キャンパスの LAN が、別々の IP アドレスを取得されている場合に限りです。例えば、B クラスの IP アドレスを取得して各キャンパスの LAN にサブネットを割り当てて運用している機関においては、別途、C クラスの IP アドレスを取得するなどの、機関内での調整が必要となります。

質問 4

- ・ SINET を含めて複数の研究ネットワークに加入したいと思っております。

SINET は、国内の主要研究ネットワークおよび海外ネットワークとは JIX 経由で接続されております。従って、SINET に加入することで、他の研究ネットワークに接続されている機関との通信も SINET 経由で行うことが可能であることから、加入機関が個々に研究ネットワークと接続する必要はありません。

なお、平成 5 年 2 月末現在、接続されている研究ネットワークは、WIDE、JOIN (BITNET)、HEPnet および米国のインターネットとなっております。

質問 5

- ・ これから学内 LAN を整備していく予定で、併せて SINET にも加入したいのですが。

新規に LAN を構築する場合であれば、まず、正規の IP アドレスとドメイン名を取得することをお勧めします。これらは、SINET に限らず、他のネットワークと接続する場合にも必要なものです。取得に関しては、日本ネットワークインフォメーションセンター (JNIC: Japan Network Information Center) までお問い合わせください。申請方法や用紙の記述などについては、電子メールやファイル転送により入手することが可能であり、また、学術情報センターから、これらの資料をお送りすることも可能です。

全学的な LAN が未整備であっても、正規の IP アドレスやドメイン名を取得しており、既に一部の部局で LAN が構築されているような場合は、当該部局を窓口として SINET に加入することが可能です。ただし、SINET は機関単位の加入を原則としていますので、今後学内 LAN が整備された場合は、既に加入している部局の LAN に接続するなど、接続の一本化のための調整をお願いすることになります。

日本ネットワークインフォメーションセンター

住 所：〒113 東京都文京区弥生 2-11-16

東京大学大型計算機センター内

E-mail： mail-server@nic.ad.jp

ファイル転送 (anonymous ftp)： nic.ad.jp/pub/jnic/XXX

(システム管理課)

学術情報ネットワーク加入機関

1. 加入の推移

〔各年度における設置形態別接続機関数〕

(平成5年2月末現在)

年 度	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高 専	共同利用	計
昭 和 61年度	4	0	0	0	0	1	5
昭 和 62年度	12	0	0	0	0	0	12
昭 和 63年度	19	0	4	0	0	6	29
平 成 元 年度	23	4	28	0	0	6	61
平 成 2 年度	13	2	18	0	0	2	35
平 成 3 年度	6	2	27	3	0	0	38
平 成 4 年度	5	3	22	3	3	1	37
合 計	82	11	99	6	3	16	217

共同利用は放送大学1を含む

〔各年度における仮想ネットワーク別接続回線等数〕

(平成5年2月末現在)

年 度	接続 回線数	仮 想 ネット ワ ーク 別 接 続 端 末 等 数										
		N-1	図 書 館	G4 FAX	SIMA IL	JAIN	HEP	UMIN	STEP	地震	SINE T	そ 他
昭和61年度	8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	—	0
昭和62年度	26	12	12	7	0	1	0	0	0	0	—	0
昭和63年度	53	30	23	3	0	7	4	1	4	0	—	0
平成元年度	118	45	43	16	5	6	11	8	1	0	—	1
平成2年度	96	32	26	7	2	14	7	8	5	4	—	4
平成3年度	86	38	30	0	1	18	0	7	3	3	—	3
平成4年度	59	31	24	1	1	9	0	5	1	-2	23	0
合 計	446	192	162	34	9	55	22	29	14	5	23	8

注) 内訳の名称は、学術情報ネットワークを利用した下記に示す仮想ネットワークの名称であり、仮称のものも含む。

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|----------------------|
| N-1 | : 大学間コンピュータネットワーク | 図書館 | : 図書館ネットワーク |
| G4 FAX | : ファクシミリ用ネットワーク | SIMAIL | : 大学間電子メールネットワーク |
| JAIN | : LAN 間接続実験ネットワーク | HEP | : 高エネルギー物理学研究用ネットワーク |
| UMIN | : 医療情報ネットワーク | STEP | : 宇宙地球理学ネットワーク |
| 地震 | : 地震研究ネットワーク | SINET | : インターネット・バックボーン |

(システム管理課)

NACSIS-IR データベース収納状況 (1/2)

平成5年1月29日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	74,685	昭和60年度～
2	学位論文索引データベース	57,376	昭和59年度～
3	学会発表データベース	115,929	昭和62年3月～
4	学術論文データベース第一系 (全文) (電子関連) (抄録)	928 2,471	平成元年度～
5	学術論文データベース第二系 (化学関連)	8,881	昭和58年1月～
6	海外研究プロジェクト データベース	80,972	平成4年1月末現在
7	民間助成研究成果概要データベース	665	昭和46年度～
8	経済学文献索引データベース	78,230	昭和58年4月～
9	学会予稿集電子ファイル	33,488	1969年4月～
10	雑誌記事索引データベース	912,128	1984年1月～
11	現行法令データベース	3,646	平成4年3月末現在
12	維新史料綱要データベース	20,376	
13	木簡データベース	13,497	
14	研究者ディレクトリ	130,109	昭和63年5月現在
15	データベース・ディレクトリ	1,327	平成4年4月現在
16	家政学文献索引データベース	19,751	1979年4月～
17	RAMBIOS	5,382	1983年4月～
18	Life Sciences Collection	1,113,634	1982年1月～
19	MathSci	850,898	1973年1月～
20	COMPENDEX PLUS	2,454,469	1976年1月～
21	Harvard Business Review	2,605	1927年1月～
22	ISTP & B	1,925,859	1982年1月～
23	EMBASE	2,612,006	1984年4月～
24	SciSearch	4,122,259	1987年4月～
25	Social SciSearch	716,633	1987年4月～

NACSIS-IR データベース収納状況 (2/2)

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
26	A & H Search	659,356	1987年4月～
27	目録所在情報データベース (和図書)	693,505 5,453,015	
28	目録所在情報データベース (洋図書)	1,677,429 3,774,501	
29	目録所在情報データベース (和雑誌)	72,627 1,493,939	
30	目録所在情報データベース (洋雑誌)	111,159 904,004	
31	科学技術関係欧文会議録 データベース	32,641	昭和60年4月～
32	アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	6,451	平成4年6月末現在
33	JPMARC	1,131,093	1969年1月～
34	LCMARC(Books)	3,371,547	1968年1月～
35	LCMARC(Serials)	561,144	1973年1月～

(注) No. 27～30 のデータベースの上段は書誌件数，下段は蔵書件数。

(システム業務係)

接続ニュース

前号以降，新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は，以下のとおりです。

(平成5年1月現在)

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
228	石川工業高等専門学校	4.12.2	234	農林水産省農業研究センター	5.1.7
229	嗣生命保険文化研究所	4.12.2	235	高崎経済大学	5.1.11
230	(株)日本医師会	4.12.15	236	山梨学院大学	5.1.14
231	杏林大学	4.12.25	237	ドイツ日本研究所	5.1.18
232	作新学院大学	4.12.25	238	文教大学	5.1.27
233	東京都立科学技術大学	5.1.6	239	大谷女子短期大学	5.1.27

この結果，参加機関数は，国立大学96，公立大学14，私立大学105，共同利用機関11，短期大学4，高等専門学校2，その他7，合計239となりました。

(共同利用係)

NACSIS-CAT データベース構築状況

(平成5年1月29日現在)

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合目録データベース	和 図 書	書 誌	694,232	
		所 蔵	5,486,085	
	洋 図 書	書 誌	954,580	
		書誌(遡及)	723,569	
	和 雑 誌	所 蔵	3,777,443	
		書 誌	73,363	
	洋 雑 誌	所 蔵	1,519,693	
		書 誌	112,428	
	著 者 名 典 拠	所 蔵	928,119	
	統 一 書 名 典 拠	所 蔵	606,432	
和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ	所 蔵	2,517		
洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ	所 蔵	8,554		
参照ファイル	LC/MARC	洋 図 書 書 誌	4,051,769	
		洋 雑 誌 書 誌	561,144	1968年1月～1992年12月
		非 文 字 書 誌	150,129	1973年1月～1992年10月
		洋 書 著 者 名 典 拠	2,492,913	1973年1月～1991年 3月
		洋 書 統 一 書 名 典 拠	132,974	1977年1月～1993年 1月
	JP/MARC	和 図 書 書 誌	1,137,273	1969年1月～1993年 1月
		和 雑 誌 書 誌	82,181	1968年8月～1991年 2月
		和 書 著 者 名 典 拠	313,514	
	UK/MARC	洋 図 書 書 誌	1,292,745	1950年1月～1993年 1月
	TRC/MARC	和 図 書 書 誌	302,340	1985年4月～1993年 1月
GPO/MARC	洋 図 書 書 誌	309,604	1976年1月～1991年 5月	

(システム業務係)

平成4年度教育・研修事業報告

平成4年度の教育・研修事業は、以下のとおり行われましたので報告します。

1. 研修事業

研修事業の種類		回次	期 間	人数	備 考		
目録システム講習会 (センター開催)		①	4. 5.25 ~ 5.29	28名			
		②	4. 6.22 ~ 6.26	28名			
		③	4. 7.20 ~ 7.24	28名			
		④	4. 8.24 ~ 8.28	28名			
		⑤	4.10.12 ~10.16	28名			
		⑥	4.12. 7 ~12.11	28名			
		追加	5. 2.15 ~ 2.19	28名			
目録システム講習会 (地域講習会)	共	北海道大学		4. 9.28 ~10. 2	14名	開催機関外修了者 8名	
		東北大学		4. 7. 6 ~ 7.10	20名	" 10名	
		筑波大学		4. 5.25 ~ 5.29	7名	" 3名	
		東京大学	①	4.10.12 ~10.16	10名	" 10名	
			②	4.10.12,10.27~30	10名	" 10名	
		東京工業大学		4. 5.18 ~ 5.22	10名	" 6名	
		一橋大学		4. 8.31 ~ 9. 4	10名	" 0名	
		金沢大学		4. 6.15 ~ 6.19	11名	" 3名	
		富山大学		4. 7.13 ~ 7.17	5名	" 1名	
		富山医科薬科大学					
	信州大学		4. 8. 3 ~ 8. 7	8名	" 0名		
	催	名古屋大学	①	4. 8.10 ~ 8.14	17名	" 22名	
			②	4. 8.10, 8.17~20	18名		
		京都大学		4. 9.28 ~10. 2	10名	" 6名	
		大阪大学	①	4. 8.24 ~ 8.28	9名	" 10名	
			②	4. 8.24, 9. 1~ 4	9名		
		大	神戸大学	①	4. 9. 7 ~ 9.11	12名	" 12名
				②	4. 9. 7, 9.14~18	10名	
			広島大学		4. 7.20 ~ 7.24	22名	" 15名
	徳島大学		①	4. 7.27 ~ 7.31	5名	" 4名	
②		4. 7.27, 8. 3~ 6	5名				
学	九州大学	①	4. 6. 8 ~ 6.12	8名	" 8名		
		②	4. 6. 8, 6.16~19	8名			
	熊本大学		4. 6. 1 ~ 6.5	10名	" 6名		
	鹿児島大学		4.11.30 ~12.4	12名	" 6名		

研修事業の種類		回次	期 間	修 数	備 考
総合目録データベース実務研修		①	4. 9.21 ~ 10.16	16名	
		②	4.11.16 ~ 12.11	16名	
ILLシステム講習会		①	4. 5.11 ~ 5.12	28名	
		②	4. 5.14 ~ 5.15	28名	
		③	4. 6.11 ~ 6.12	28名	
		④	4. 7. 9 ~ 7.10	28名	
		⑤	4. 8. 6 ~ 8. 7	28名	
		追加	5. 1.21 ~ 1.22	28名	
		追加	5. 1.25 ~ 1.26	28名	
NACISIS-IR講習		①	4. 6. 5	28名	基礎コースⅠ
		②	4. 7. 3	28名	〃
		③	4. 9. 4	28名	〃
		追加	4.12.15	28名	〃
		追加	4.12.16	28名	〃
		①	4. 8.18 ~ 8.19	28名	基礎コースⅡ
		②	4.10.21 ~ 10.22	28名	〃
I R 大 学	共催	北海道大学	4. 7. 9 ~ 7.10	23名	総合コース
		金沢大学	4.10. 8 ~ 10. 9	24名	〃
		立命館大学	4.11.30 ~ 12. 1	14名	〃
		鹿児島大学	5. 2.18 ~ 2.19	27名	〃
情報ネットワーク担当職員研修 (文部省共催)		①	5. 2.23 ~ 2.26	12名	
		②	5. 3. 9 ~ 3.12	12名	

研修事業修了者数累計

研修事業の種類	年 度							累 計
	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	
目録システム講習会	112	202	343	344	401	373	456	2231
総合目録データベース実務研修	24	30	25	32	32	32	32	207
ILLシステム講習会						140	196	336
NACISIS-IR講習					22	128	284	434
情報ネットワーク担当職員研修							24	24

2. シンポジウム

テ ー マ	期 日	会 場	参加数
人文科学と情報処理システム	4.10.13	京都大学薬学部記念講堂	140

平成5年度研修事業計画

平成5年度の研修事業は、以下に示す概要・日程・参加手続によって開催される予定です。

平成5年度 研修事業の概要

研修事業の種類	目 的	対 象
目録システム講習会	目録システムの運用に関する知識・技術の習得	目録システム接続および接続予定機関の目録システム業務担当職員
目録システム講習会 (地域講習会)	目録システムの運用に関する知識・技術の習得〔目録システム講習会の受講機会の拡大を図るため、各図書館等と共催で開催〕	目録システム接続および接続予定機関の目録システム業務担当職員
総合目録データベース実務研修会	目録所在情報サービスを利用している図書館等において、目録担当者の指導、目録システム講習会の講師などを行う高度な知識と技術を有する指導的人材の養成	目録所在情報サービスを利用している図書館等職員のうち目録システム講習会を修了し、かつ目録業務について十分な知識と経験を有する者
ILLシステム講習会	ILLシステムの運用に関する知識・技術の習得	ILLシステム業務担当の図書館等職員
NACSIS-IR講習会 (基礎コースI)	情報検索に関する基礎的な知識・技術の習得	図書館等において代行検索を行う者のうち情報検索について初心者もしくは1年未満の者
NACSIS-IR講習会 (基礎コースII)	情報検索に関する応用的な知識・技術の習得	図書館等において代行検索を行う者のうち基礎コースI修了者または同等の情報検索経験が1年以上3年未満の者
NACSIS-IR講習会 (地域講習会)	情報検索に関する基礎的な知識・技術の習得〔NACSIS-IR講習会の受講機会の拡大を図るため、各図書館等と共催で開催〕	図書館等において代行検索を行う業務担当職員およびNACSIS-IRの利用者
情報ネットワーク担当職員研修 (文部省共催)	情報ネットワークに関する高度な知識・技術の習得	大学等におけるネットワーク管理運用に携わる技術担当職員
電子メールシステム講習会	電子メールシステムに関する基本的な知識・技術の習得	NACSIS-MAILの利用者

【センターで開催される研修事業】

研修事業の種類	回	期 間	定員	申込締切日	備 考
目録システム講習会	①	5. 5. 24～5. 28	28名	4. 23	
	②	5. 6. 21～6. 25	28名	5. 14	
	③	5. 7. 19～7. 23	28名	6. 11	
	④	5. 8. 23～8. 27	28名	7. 16	
	⑤	5. 10. 18～10. 22	28名	9. 10	
	⑥	5. 11. 29～12. 3	28名	10. 22	
	⑦	6. 1. 24～1. 28	28名	12. 10	
総合目録データベース実務研修会	①	5. 9. 27～10. 22	12名	7. 16	
	②	5. 11. 8～12. 3	12名	7. 16	
ILLシステム講習会	①	5. 6. 1～6. 2	28名	4. 26	
	②	5. 7. 8～7. 9	28名	5. 28	
	③	5. 9. 20～9. 21	28名	8. 13	
	④	5. 10. 26～10. 27	28名	9. 17	
	⑤	5. 12. 7～12. 8	28名	10. 29	
NACSIS-IR講習会 (基礎コースⅠ)	①	5. 6. 15	28名	5. 14	
	②	5. 6. 16	28名	5. 14	
	③	5. 11. 1	28名	10. 1	
	④	5. 11. 2	28名	10. 1	
	⑤	5. 12. 14	28名	11. 5	
NACSIS-IR講習会 (基礎コースⅡ)	①	5. 9. 2～9. 3	28名	7. 30	
	②	6. 1. 12～1. 13	28名	12. 3	
電子メールシステム講習会	①	5. 6. 10～6. 11	28名	4. 30	
	②	5. 8. 2～8. 3	28名	6. 25	

【大学を会場としてセンターとの共催で開催される講習会】

目録システム講習会（地域講習会）

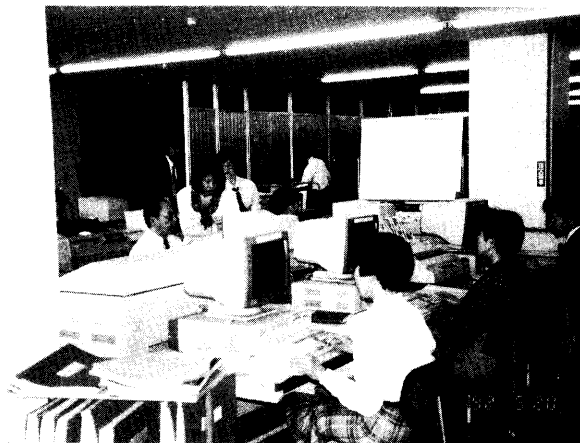
共 催 大 学	期 日	1 日 目	2 日 目 以 降	締 切 日	定 員	甄 別	備 考
筑 波 大 学		5. 5.24	5.25 ～5.28	4.23	7 名	A	他機関からの受入 4 名
熊 本 大 学		5. 5.31	6. 1 ～6. 4	*	10名	B	” 6 名
九 州 大 学	①	5. 6. 7	6. 8 ～6.11	5. 7	16名	A	” 8 名
	②	5. 6. 7	6.15 ～6.18				
横 浜 国 立 大 学	①	5. 6.28	6.29 ～7. 2	5.28	10名	A	” 4 名
	②	5. 6.28	7. 6 ～7. 9				
金 沢 大 学		5. 6.28	6.29 ～7. 2	*	10名	B	” 5 名
東 北 大 学		5. 7. 5	7. 6 ～7. 9	6. 4	20名	A	” 14名
富 山 大 学 富山医科薬科大学		5. 7.12	7.13 ～7.16	6.11	7 名	A	” 4 名
鹿 児 島 大 学		5. 7.12	7.13 ～7.16	6.11	10名	A	” 5 名
名 古 屋 大 学		5. 7.19	7.20 ～7.23	6.18	12名	A	” 7 名
徳 島 大 学	①	5. 7.26	7.27 ～7.30	*	10名	B	” 4 名
	②	5. 7.26	8. 3 ～8. 6				
岡 山 大 学		5. 8. 2	8. 3 ～8. 6	*	10名	B	” 4 名
愛 媛 大 学		5. 8. 2	8. 3 ～8. 6	*	7 名	B	” 3 名
一 橋 大 学		5. 8.16	8.17 ～8.20	7.16	10名	A	” 4 名
大 阪 大 学		5. 8.16	8.17 ～8.20	7.16	8 名	A	” 4 名
北 海 道 大 学		5. 9. 6	9. 7 ～9.10	*	12名	B	” 8 名
東 京 大 学	①	5. 9.27	9.28 ～10.1	8.27	20名	A	” 10名
	②	5. 9.27	10. 5 ～10.8				
広 島 大 学		5. 9.27	9.28 ～10.1	8.27	20名	A	” 13名
京 都 大 学		5.10. 4	10.5 ～10.10	9. 3	10名	A	” 5 名
神 戸 大 学	①	5.10. 4	10. 5 ～10.8	*	18名	B	” 10名
	②	5.10. 4	10.12～10.15				

*参加手続「B」日程の申込締切日は開催大学毎になりますので、開催大学へ問い合わせください。

NACSIS-IR 講習会 (地域講習会)

共 催 大 学	期 間	締切日	定員	加 級	備 考
筑 波 大 学	5. 7. 1～7. 2	5. 5. 31	20名	A	他機関からの受入15名
北 海 道 大 学	5. 7. 7～7. 8	*	20名	B	" 10名
徳 島 大 学	5. 7. 21～7. 22	5. 6. 18	23名	A	" 12名
東 北 大 学	5. 7. 27～7. 28	5. 6. 25	20名	A	" 13名
立 命 館 大 学	5. 8. 3～8. 4	5. 7. 2	15名	A	" 5名
名 古 屋 大 学	5. 8. 5～8. 6	5. 7. 2	25名	A	" 15名
信 州 大 学	5. 8. 24～8. 25	5. 7. 23	30名	A	" 10名
京 都 大 学	5. 9. 7～9. 8	5. 8. 6	10名	A	" 5名
東 京 学 芸 大 学	5. 9. 28～9. 29	5. 8. 27	14名	A	" 7名
大 阪 大 学	5. 10. 7～10. 8	5. 9. 3	19名	A	" 15名
金 沢 大 学	5. 10. 19～10. 20	*	16名	B	" 6名
東 京 大 学	調 整 中		20名	A	" 10名

*参加手続「B」日程の申込締切日は開催大学毎になりますので、開催大学へお問い合わせください。
東京大学での地域講習会日程は決定次第ニュースなどでお知らせします。



東京工業大学で行われた目録システム地域講習会の実習風景

平成 5 年 度 研 修 日 程 表

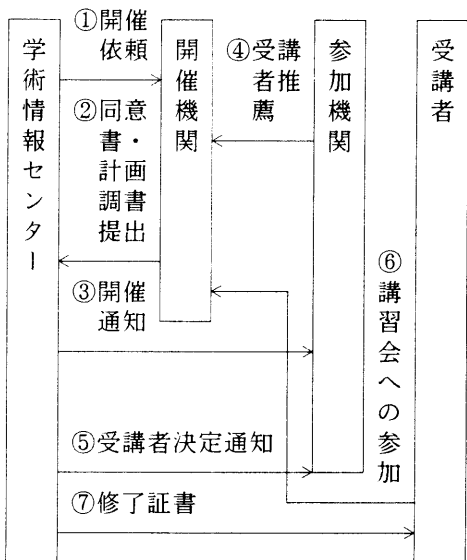
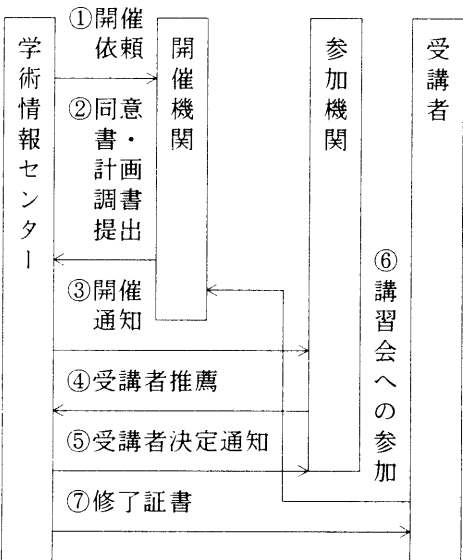
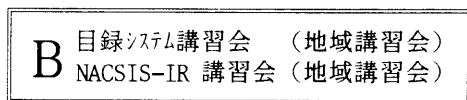
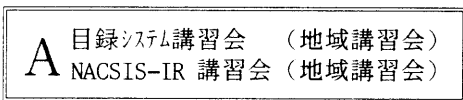
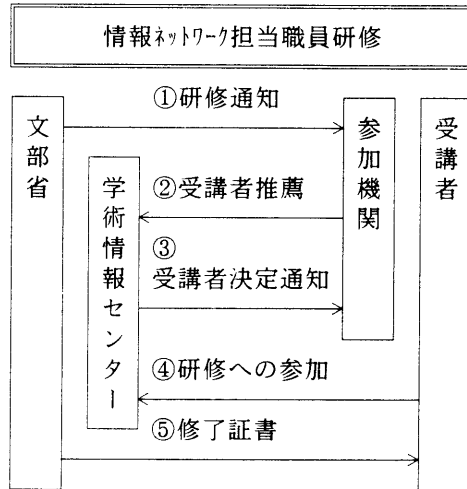
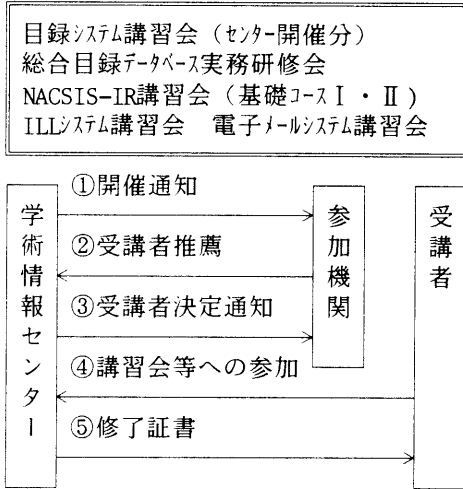
月 日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5月	土	日	休	休	休																	土	日							土	日
6月																															
7月																															
8月																															
9月																															
10月																															
11月																															
12月																															
1月																															

大学名：地域講習会（目録システム、MACSIS-IR）

① 筑波大学 目録システム講習会①
 ② 九州大学①
 ③ 東北大学 IR
 ④ 立命館大学 IR②
 ⑤ 京都大学 IR②
 ⑥ 京都大学 IR①
 ⑦ 目録システム講習会⑦
 ⑧ 東北大学 IR
 ⑨ 徳島大学 IR
 ⑩ 信州大学 IR
 ⑪ 学芸大 IR
 ⑫ 東京大学 IR①
 ⑬ 広島大学
 ⑭ 総合目録システム講習会④
 ⑮ 目録システム講習会②
 ⑯ 徳島大 IR
 ⑰ 目録システム講習会③
 ⑱ 名古屋大学
 ⑲ 信州大 IR
 ⑳ 目録システム講習会④
 ㉑ 学芸大 IR
 ㉒ 東京大学 IR①
 ㉓ 広島大学
 ㉔ 総合目録システム講習会④
 ㉕ 目録システム講習会⑥
 ㉖ 目録システム講習会⑤
 ㉗ 金沢大 IR
 ㉘ 目録システム講習会⑤
 ㉙ 目録システム講習会②
 ㉚ 九州大学②
 ㉛ 九州大 IR
 ㉜ ILL②
 ㉝ 横濱国立大学 IR
 ㉞ 東北大学
 ㉟ 立命館大 IR①
 ㊱ 徳島山大学
 ㊲ 愛媛大
 ㊳ 京都大 IR
 ㊴ 北海道大学
 ㊵ 京都大学②
 ㊶ 京都大学①
 ㊷ 神戸大学①
 ㊸ 神戸大学②
 ㊹ 総合目録システム講習会②
 ㊺ 目録システム講習会⑥
 ㊻ ILL⑤
 ㊼ IRI⑤
 ㊽ IRI②
 ㊾ ILL④
 ㊿ 目録システム講習会⑦

研修事業への参加手続

1. 手続の流れ (参加手続)



2. 申込および受講者の決定

所定の推薦調書を所属機関の長から学術情報センター所長へご推薦ください。当センターにおいて選考のうえ、受講者を決定し、所属機関の長へ通知します。

- *実施要項および推薦調書などは、年度当初に機関の長宛文書にて通知します。
- *参加希望などのお問い合わせは、地域講習会参加手続「B」は各開催機関（大学図書館）、それ以外は研修係へお問い合わせください。
- *学術情報センターには宿泊施設などはありませんので、受講決定後、受講者側にてご用意ください。
- *平成5年度研修事業計画は、事情により変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。

3. その他

平成5年度に電子メールシステム講習会を新たに設けることになりました。一方、情報ネットワーク担当職員研修も文部省との共催で2回開催する予定です。日程および要項などは文部省より大学等の機関の長宛へ通知します。

総合目録データベース実務研修は、名称を「総合目録データベース実務研修会」と改め、研修会会場の都合により定員が12名になりました。

「NACSIS-IR 講習」を「NACSIS-IR 講習会」とし、総合コースを地域講習会とします。NACSIS-IR 地域講習会は、事情により日程などの変更が生じることがありますので実施要項をご覧ください。

目録システム地域講習会の日程がいくつかの大学において重なっています。この場合センターの「テキスト」の使用が出来ないことがありますので、あらかじめ講習会担当者および講師団の中で重複する大学間の調整をお願いします。

学術情報センターネットワークのメンテナンスのための休止日が、平成5年6月24日（木）と平成5年8月26日（木）になります。休止時間は午後1時より午後5時までを予定しています。

その他、研修計画についてのご質問は、研修係までお問い合わせください。

（研修係）

平成4年度目録所在情報サービス利用説明会の報告

平成4年度に短期大学および高等専門学校を中心とした未接続図書館に目録所在情報サービスの概要や接続方法を理解していただくための利用説明会を9回開催し、127機関、193人の参加があった。

平成4年度目録所在情報サービス利用説明会参加機関数および参加人数

(平成5年2月1日現在)

参加機関数 および 参加人数	合 計	開催日程別内訳										
		1回	2回		3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	
		5/22	6/19 AM/PM		7/17	9/18	10/23	11/20	12/18	1/22	2/19	
参加機関数	127	16	16	16	16	16	13	10	4	4		
内 訳	大 学	56	5	8	6	7	5	11	6	5	1	2
	短 大	48	8	7	8	7	5	3	6	2	1	1
	高 専	19	3	1	2	2	6	2	1	2	0	0
	その他	4	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1
参加人数	193	23	27	22	27	23	23	26	11	4	7	

注) 第2回は参加希望機関が多数のため、午前、午後の2回開催した。

(共同利用係)

平成5年度目録所在情報サービス利用説明会の開催

平成5年度も、平成4年度同様に短期大学、高等専門学校、私立大学を中心とした未接続図書館に目録所在情報サービスの概要や接続方法を理解していただくため、下記の日程で「目録所在情報サービス利用説明会」を開催しますのでご案内します。

(1) おもな内容

- ①学術情報センターの概要、②目録所在情報サービスの概要と利用方法
③学術情報センターとの接続方法、④利用申請方法、⑤質疑応答、個別相談

(2) 開催日時および申込締切

開 催	日 時	募集開始	申込締切
第1回	5月14日(金) 13:10~16:30	4月1日(木)	4月30日(金)
第2回	6月17日(木) 13:10~16:30		6月4日(金)
第3回	7月30日(金) 13:10~16:30	8月2日(月)	7月16日(金)
第4回	9月14日(火) 13:10~16:30		9月3日(金)
第5回	10月8日(金) 13:10~16:30		9月24日(金)
第6回	11月19日(金) 13:10~16:30		11月5日(金)

なお、各回先着12機関とさせていただきますので、希望日を電話(03-3942-6933 共同利用係)で予約(確認)のうえ、「目録所在情報サービス利用説明会参加」と明記し、①機関名、②機関の郵便番号および住所、③参加者の職名および氏名(3名以内)、④連絡先の電話番号、⑤接続予定の計算機(メーカー名、機種名、規模など)、⑥参加日(第○回○月○日)を記入しFAX(03-3814-4931 共同利用係宛)にてお申し込みください。

(共同利用係)

学術情報センター公開講演会開催

学術情報センターは、去る11月20日（金）午前9時30分から、文部省科学研究費補助金（国際共同研究）「日本情報および東アジア文字による学術データベースの国際交換に関する研究」の一環として、公開講演会「学術情報と標準化」を国立国会図書館と共催で同図書館講堂において開催した。



講演に先立ち、猪瀬 博学術情報センター所長、加藤木理勝国立国会図書館長および長谷川裕恭文部省学術情報課長の挨拶があり、井上 如研究代表からの開催趣旨説明に引き続き講演会が行われ、午後5時30分に終了した。

講演者は、英国、米国、カナダ、中国、韓国、シンガポールおよび日本と多彩を極め、各国の学術情報と標準化について、OHP、スライドおよびビデオを用いて講演を行い、約300人の聴衆は最後まで熱心に耳を傾けた。

(研究協力係)

平成4年度後期会議などの報告

評議員会

平成4年度後期の学術情報センター第15回評議員会は次のような議事について審議・報告を行った。

1. 第15回（平成5年2月1日） 於：学術情報センター分室会議室
- 議事
1. 次期所長候補者の選考について
 2. 教官の人事について
 3. 平成4年度事業状況報告について
 4. 平成5年度学術情報センター予算内示額の概要について

運営協議委員会

平成4年度後期の学術情報センター運営協議委員会は2回開催し、次のような審議・報告を行った。

1. 第18回（平成4年12月25日） 於：学術情報センター分室会議室
 - 議事 1. 次期所長候補適任者の推薦について
 2. 教官の人事について

2. 第19回（平成5年2月16日） 於：学術情報センター分室会議室
 - 議事 1. 学術情報センター客員教授および客員助教授選考規則の制定について
 2. 教官の人事について
 3. 平成4年度事業報告について
 4. 平成5年度学術情報センター予算内示額の概要について

データベース委員会

平成4年度データベース委員会が平成5年2月9日（火）に開催され、次のような報告・審議を行った。

- 報告事項
1. 情報検索サービスの運用について
 2. 情報検索サービスの拡充およびデータベースの作成について
 3. 研究者等提供データベースの受入状況について
 4. NACSIS-IR 講習会実施について
 5. NACSIS-IR モニター制度の実施について
 6. 平成4年度学術研究活動に関する調査の実施について
 7. SGML 方式による学術情報センター紀要の作成について
 8. 平成5年度データベース関係予算および定員（案）について
- 審議事項
1. 平成5年度情報検索サービス計画について
 2. 平成5年度 NACSIS-IR 講習会実施計画について
 3. 今後のデータベース作成・導入について
 4. 新規作成データベースの検討について

総合目録委員会

平成4年度第2回総合目録委員会が、平成5年2月17日（水）に開催され、次のような審議を行った。

- 議事
1. 目録所在情報サービスの利用者拡大について
 2. 目録システムにおける共有レコードの修正指針について
 3. 「目録情報の基準」の整備について
 4. 平成5年度研修実施計画について

海外渡航一覧

11. 2 ~11. 6	根岸教授 (ルクセンブルグ)	2. 2 ~ 2. 7	山田研究開発部長、 高見澤研究協力係長、 孫助手 (シンガポール)
11.14 ~11.22	郷原技官 (米国)	2. 3 ~ 2.10	内藤教授 (シンガポール)
11.23 ~11.28	根岸教授 (仏国)	2. 3 ~ 2.14	井上研究主幹 (米国)
11.29 ~12. 6	宮澤教授、坂上目録情報課長 (米国)	2.17 ~ 2.22	浅野教授(ベルギー, ドイツ)
12.13 ~12.20	山田研究開発部長 (米国)	2.17 ~ 2.24	奥田管理部長, 貝田国際情 報専門員 (ベルギー, ドイツ)
1.10 ~ 1.17	相澤助手 (米国)	3. 5 ~ 3.14	池田会計課長 (米国)
1.12 ~ 1.17	浅野教授、郡司ネットワーク 係長 (米国)		
2. 1 ~ 2. 6	小山助教授 (韓国)		

学術情報センター日誌

[平成4年11月13日~平成5年2月5日]

11.16	第2回総合目録データベース実務研修 ~12.11	12.22	米国 University of Illinois, Asian Library, Mamiko Nakamura 氏来訪
〃	韓国 Seoul National University Library, LEE Young Jun 氏他1名来訪	12.25	運営協議員会
11.17	米国 United State General Accounting Office, Rosa M. Johnson 氏他4名来訪	〃	英国 Cambridge University Library, Kazumi Cunnison 氏来訪
11.18	国際共同研究・ワークショップ ~11.19	1.19	科学技術庁有本科学技術情報課長他一 行来訪
11.20	公開講演会：学術情報と標準化 於国立国会図書館	1.21	ILL システム講習会 (追加第1回) ~1.22
11.24	永年勤続者表彰	1.25	ILL システム講習会 (追加第2回) ~1.26
11.25	文部省人事課任用監査	2. 1	評議員会
11.27	仏国 CNRS, Nathalie Dusoulier 氏他2名 来訪	2. 2	米国 MCC (Microelectronics Computer & Technology Corp.), Howard Curtis 氏来訪
12. 4	タイ国 Srinakharinwirot Univ., Sujin Butdisuwan 氏他4名来訪	2. 2	会計検査 ~2.4
12. 8	中国 University of Science and Tech- nology of China, Chen Guo Liang 氏来訪	2.15	韓国ソウル大学および国立中央図書館 CHOI Yang-hee 氏他3名来訪
12. 8	米国 NASA Science Networking Office of Space Science and Application, Anthony Villasenor 氏他2名来訪	2.15	目録システム講習会(追加)~2.19
12.11	韓国 KINITI (産業技術情報院) Kwon Coong Hwan 氏来訪	2.23	情報ネットワーク担当職員研修(第1回) ~2.26
12.15	IR 講習基礎コース I (追加第1回)	3. 9	情報ネットワーク担当職員研修(第2回) ~3.12
12.16	IR 講習基礎コース I (追加第2回)		

学術情報センターニュース (第23号)

1993年3月19日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 東京都文京区大塚3丁目29番地1号 (〒112)

電話 (03)3942-6937 (直通) 情報・資料係